



2017年3月21日

各位

色 麻 町 積水ハウス株式会社

官民連携による地域防災力向上とキッズ防災リーダー育成プログラムが 「ジャパン・レジリエンス・アワード(強靭化大賞)2017」“最優秀レジリエンス賞”を受賞

宮城県色麻町(町長:早坂 利悦 以下、色麻町)と積水ハウス株式会社(本社:大阪市北区、社長:阿部 俊則 以下、積水ハウス)は、3月15日(水)に発表された「ジャパン・レジリエンス・アワード(強靭化大賞)2017」(主催:一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会、会長:三浦 惺)において、「官民連携による地域防災力向上とキッズ防災リーダー育成プログラム」が評価され“最優秀レジリエンス賞”を受賞しました。

【ジャパン・レジリエンス・アワード(強靭化大賞)について】

一般財団法人レジリエンスジャパン推進協議会が主催する、次世代に向けた強靭化(レジリエンス)社会構築に向けて強靭な国づくり、地域づくり、人づくり、産業づくりに資する活動、技術開発、製品開発等に取り組んでいる先進的な企業・団体を評価、表彰する制度です。2015年から開催され、3回目となる今回は218件の応募がありました。



色麻町の避難所として指定された東北工場
250名が7日間生活できる備蓄を整備



色麻学園では、小・中学生の全学年において
「防災time」を実施



色麻町と積水ハウスは、レジリエンス(強靭化)に向けた取り組みとまちづくりを続けてきました。2013年9月、両者は町内で積水ハウスが操業する東北工場のインフラ設備を災害時に活かして町の防災拠点とする「防災協定」を締結、地域防災力強化を目的に連携した取り組みを開始しました。

色麻町の避難所に指定されている積水ハウス東北工場には、250名が7日間生活できるスペースと防災備蓄品を確保している他、災害により停電した場合にもエネルギーを確保・利用できる「スマートエネルギーシステム」を構築し、確保されたエネルギーは避難所に電力が供給できる等、官民で使用することが可能です。2014年10月には、官民連携の総合防災訓練を実施し、それぞれの役割と連携を確認しました。

2015年3月に開催された「第3回国連防災世界会議」(主催:国際連合)では関連事業として実施されたスタディツアー(被災地公式視察)の視察先に色麻町が選定され、東北工場において官民連携の防災の取り組みを世界に発信しました。さらに、この会議で採択された「仙台防災枠組2015-2030」を受け、新たな取り組みとして、色麻町の未来を担う子どもたちを地域の防災リーダーとすることを目的とした「防災教育プログラム」を開始しました。色麻学園の小・中学生を対象に、官民が協働で構築したプログラムによるワークショップや授業を実施し、高い防災知識を根付かせ、防災力を習得する防災教育を行っています。

今後も色麻町と積水ハウスは、この活動を継続し、官民連携による強固な地域防災コミュニティの構築と、将来の防災を担う次世代を育成する色麻町発の先進的な「防災教育モデル」の普及を目指します。

■これまでの取り組み

- 2013年9月 色麻町と積水ハウスが「防災協定」を締結
以降、官民連携で地域防災力向上に取り組み、災害に強いまちづくりを推進
- 2015年3月 「第3回国連防災世界会議」に参画
色麻町の子どもたちとともに、東北工場での官民連携の防災の取り組みを世界へ発信
この国連防災世界会議において「仙台防災枠組2015-2030」が採択される
- 2015年5月 「キッズ防災リーダー育成プロジェクト」開始
災害時の「自助」「共助」について学ぶプログラムを官民の協働で構築
- 2015年11月 色麻町立色麻学園における「防災time」の取り組みで官民連携
実際の教育現場で小・中学生が学ぶ防災授業、官民連携のプログラムも実施
- 2016年9月 - 11月 色麻町立色麻学園にて中学生向けの「防災授業」を実施
教員と積水ハウスが連携して学習指導要領に沿った授業を実施、今後も継続予定

1. 「防災協定」に基づき、色麻町内のインフラを活用した防災体制を官民連携で構築

2013年9月に色麻町と積水ハウスは「防災協定」を締結し、それぞれのインフラを活かした様々な官民連携体制を構築しています。

町内で積水ハウスが操業する東北工場では、3種類の電源(太陽光発電、蓄電池、発電機)を用いた「スマートエネルギーシステム」を構築し、災害による停電時にもエネルギーの確保が可能であるため、地域の防災拠点として機能します。また、色麻町が工場を避難所として指定しており、250名が7日間生活できるスペースと備蓄品を整備して災害時に活用します。

2014年10月には、工場内に色麻町災害対策本部を設置、避難所を開設するという設定で、色麻町、消防、警察、自衛隊、民間企業などの19機関と色麻町民の総勢2,073名が参加した総合防災訓練を実施し、それぞれの役割、機能、体制の確認をしました。



「スマートエネルギーシステム」により、災害発生時にも官民が使用できるエネルギーを確保

2. 「第3回国連防災世界会議」での発信

2015年3月に開催された「第3回国連防災世界会議」(主催:国際連合、日程:2015年3月14日(土)～18日(水))の関連事業として実施されたスタディツアー(被災地公式視察)の視察先に色麻町が選定され、東北工場を会場とし、官民連携の防災の取り組みを世界に発信しました。スタディツアーには、30の国と地域から約200名が参加しました。ツアーには色麻町の子どもたちも参加し、参加者のために演奏や合奏などを実施、国際交流という点においても大きな成果を得ました。

【スタディツアーについて】

<ツアー名> 官民連携による地域防災への取り組みと先進の住宅防災技術
～共助による災害に強い“まち”を目指して～

<場 所> 積水ハウス株式会社 東北工場

<概 要> 町の指定避難所とし活用される東北工場で、官民で活用できるエネルギーを確保する「スマートエネルギーシステム」や先進の住宅防災技術を展示、説明



「第3回国連防災世界会議」スタディツアー



色麻町の子どもたちと海外の参加者との交流

3. 色麻町の将来の「防災」を担う次世代を育成

「第3回国連防災世界会議」で採択された「仙台防災枠組2015-2030」において「子どもと若者」が防災関係者として活動することへの期待が明記されたことを受け、2015年5月に色麻町と積水ハウスは「キッズ防災リーダー育成プロジェクト」を開始しました。

協働で企画開発した「子ども防災ワークショップ」では、防災に対する正しい理解や状況に適した判断力を養う「自助」と、災害発生時の避難所における人的多様性を学ぶ「共助」のプログラムを実施しています。この取り組みにより、町の教育委員会とも連携し、色麻町立色麻学園(小中一貫校)の学習指導要領に基づく授業にも展開しています。

色麻学園では、全学年において月に1回15分の防災授業「防災time」を実施しています。5、6年生の授業では官民連携で構築した、子どもたちが防災について楽しく学べる実践型の授業を行いました。

また、中学生の「防災授業」では、家庭科、理科の防災に関連のある単元において、学習指導要領に則り体験を交えた授業を実施し、「学び」がどのように「防災」に役立てられるかの気付きを提供します。この取り組みは、公開授業に参加した先生方から「同じような取り組みを行いたい」と、高い評価を受けています。

今後は、宮城県内の学校への水平展開と、色麻町発の先進的な「防災教育モデル」として全国への普及を目指し、活動を続けます。



防災について楽しく学ぶ色麻学園の小学生の「防災time」での授業



地震時に家で実践できる対策を考えるなど体験を交えた中学生の「防災授業」